1-3-4. 水圏生物観察会

櫛田優花（島嶼研奄美分室）

豊かなサンゴ礁や砂泥環境が多く残されている奄美大島において、海洋環境教育は島の自然を維持していくために重要な活動である。特に、奄美大島の将来を担う若い世代の地元の海に対する興味・関心は、島のユニークな海洋環境および生物多様性を維持する上で重要である。そこで、2021 年度の本プロジェクトでは、①島の次世代を担う若い世代に海とそこに生息する生きものに触れ合う機会を提供する、②奄美大島のサンゴ礁地形やその環境に生きる多様な生きものを直接見て、知ってもらうことを目的として 11/7（日）(荒天時の予備日)にあやまる岬観光公園にて「磯のいきもの観察会～島のいきものを探そう～」を開催した。

観察会の主な概要は以下の通りである：

- サンゴ礁および普遍的にみられるイシサンゴ類について、パネルで紹介
- イシサンゴ類以外の磯でみられる海洋生物を参加者とともに見つけ出し、解説および観察をする
- 砂浜を歩き、有孔虫等を探しながら、砂を構成する周辺環境との関係を解説。

図 水圏生物観察会のポスター

本観察会は、奄美大島在住の中学生～高校生をターゲットとして計画をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響や、同日に複数のイベントが開催されることから、小学 4~6 年生（保護者同伴可能）も対象年齢層に追加し、ポスター、SNS、メーリングリスト、新聞、ラジオを通じて広報が行われた。講師は櫛田優花（島嶼研奄美分室）および国広潮里博士（一般財団法人沖縄美ら島財団）が務めた。定員が 10 名のうち、7 名が参加し、磯の生物や砂を観察・解説を実施した。アンケートでは、「時間があっという間にすぎてしまったと思えるくらい楽しかった。たくさんの知識を教えてもらって勉強になった。」「もう一回したい。楽しかった。」「身近にある海にはよく見てみるとたくさんの生き物がいたり、いろんな生き方をしたりしていると思った。」「いつもは気に留めていなかった場所に知らない生物の世界があることに気づいた。」などのポジティブなコメントを多くいただいた。また同時に、他にどんなところの生物観察をしたいか尋ねた欄では、海中（シュノーケリング）、山、奄美大島の固有種があげられた。また、参加者の多くが本観察会をポスターで知ったと回答しており、保護者の方からは「ポスターだけでなくプリントを配布すると、興味のある方が集まりやすい」という助言を頂いた。